

助成活動実績報告書

企画名	旭川河口域及び児島湾の生物調査
団体名	オカヤマヤセイセイブツチョウサカイ 岡山野生生物調査会

①活動の目的について

岡山の自然・野営生物に興味を持つ人と、地元住民が、共にフィールドワーク（野外調査）を体験したり、いろいろな経験や知識を持つ専門家とが協働で活動をしたりすることで、身近な自然のすばらしさや地域の人々の豊かな経験と文化等（たからもの）を共感・共有することを本事業の目的とした。

本年度は、旭川流域の調査観察会には集大成として、旭川河口域（汽水域）と児島湾の干潮帯の底生生物（ベントス）に注目して、市民や関心のある方に観察会や調査を行うための予備的な調査を実施することにした。

②内容について

《A 調査・観察会》：主に従来の調査観察会他

1～3月；オシドリ・カモ類等冬鳥の観察（5名：足守川、黒谷ダム）、セツブンソウ・アテツマンサク・カザグルマ等春の山野草の観察（2/22 6名：御津天満、同九谷等）、ヤマアカガエル産卵状況観察（5名：粟井・吉備高原）

4月；ゲンジボタルの幼虫調査（御津大野、福谷）4月16日；ワスレナグモ調査（9月2日；ファイバースコープによる調査）

5月27日；ゲンジボタル、ヒメボタルの観察調査開始（御津大野、福谷）6月7日；福谷ホタル観察会 同13日；御津大野ホタル観察会 同21日；北房ヒメボタル調査

9月6日；オオシロカゲロウ観察会 9月13日；大野川生き物・水質調査

11月8日；大野川ホタル幼虫調査 同22日御津母谷新池干し調査観察（前日夜間ライトトラップ、当日野外発電に発電機使用）同23日ヤマトビロトビケラ観察会（7名）

《B 調査・採集》：旭川河口域（ケレップ水制）、児島湾沿岸の砂中を採取して底生生物の調査、他

2月14日；向小串港、西原港の干潟採集（M1,M2,M3,N 4地点）

3月6日；旭川河口域ケレップ水制の地点採土(K1,K12,K13,K14,K 4地点)

3月28日；勝山かい掘り予備調査（ナガレカワトビケラ他）

4月4日；旭川河口域ケレップ水制の地点採土(K2,K3,K4,K5 4地点)

4月7日；水門湾南岸地点採土(C,D 各4地点)

5月17,22日；旭川大橋の南ケレップ水制の地点採土(KS4 地点) 同23日；高島東側地点調査(TKE 8地点)

8月1日；百間川の生物調査に参加(5名)

9月18日；シカメガキ(4蟠港他4か所)調査(5名)

1月30日；同調査(KS 地点含む 5名)

2月27日；第12回水環境フォーラムに参加(3名)

③この活動によって達成された成果

【旭川河口域、児島湾沿岸や高島干潟で見られた底生生物について】

- ・ 3～5月の調査で得られた生物を専門家に依頼(鹿児島大学 佐藤正典氏)して同定してもらったところ、ヤマトカワゴカイとヒメヤマトカワゴカイ、イトゴカイ科の一種(ホソイトゴカイ)、スピオ科の一種、ケヤリムシの一種、アオブネ科(イシマキガイ 二枚貝)、ウミナナフシ科の一種(淡水の昆虫)、イソコツブムシ(淡水の昆虫)等の報告があった。
- ・ ケレップ水制のある砂干潟には、ハクセンシオマネキ(岡山県絶滅危惧種Ⅰ類 環境省絶滅危惧Ⅱ類)やソトオリガイ、マテガイ他カニ類、イソコツブムシ(水生昆虫)等がいた。また、高島では、ミヤコドリガイ(岡山県情報不足 環境省絶滅危惧種)、テリザクラ(岡山県環境省とも絶滅危惧Ⅱ類)や砂で筒巣を作るゴカイもいた。同島の西側の岩礁ではカニヤドリカンザシゴカイ(要注意外来種)の群体(棲管)が見られた。
- ・ 旭川河口域ケレップ水制の砂質干潟では深さ2～30cmから酸欠状態の青黒い泥砂質になるところが多かった。水門湾の泥干潟では深さ1～20cmぐらいからカキ殻や大粒の砂質になるところが多かった。また、水門湾では底生動物の種類が豊富であることが分かった。
- ・ 冬季には、水鳥が群れている場所が多く、またそこは、ゴカイ類を始め底生動物が豊富にいることが予想された。
- ・ カワゴカイ類の群泳の観察は、旭川河口域ケレップで2回(内1回のみヤマトカワゴカイの単独遊泳を目撃した)、飽浦、水門湾で各1回実施したが、満潮時刻が夜間(深夜)に及ぶこともあり、今後観察会はできないと予想された。

④今後の計画・展望について

- ・ 今年度の活動によって、汽水域の底生動物の知識を得ることができた。また、インターネットにより多くの文献や調査報告書に接することができた(例;河川環境データベース「底生動物調査」等)。また、ゴカイ類の専門家による同定を依頼し、今後ともアドバイスを受けることができる体制(関係を作ること)ができた。
- ・ 「水環境フォーラム in 岡山」等への参加による見聞で、河口域や児島湾の底生生物調査の重要性(必要性)を認識することができた。特に「児島湾は、瀬戸内海の縮図とも言える場所であり、児島湾での研究、実証が豊かな海の実現に向けての有益な知見となる。(県農林水産総合センター 水産研究所 高木秀蔵氏)」は示唆に富む内容だった。また、児島湖に関わる地域のみなさん(漁業関係者含む)といろいろな話を聞くことができた。
- ・ 今後は、「豊かな干潟や、児島湾の自然を再生してほしい」との願いや思いを大切に、児島湾の生き物たちの姿を伝えるように、公民館等との連携や専門研究者の情報を広く市民に伝える「情報発信」をしていきたい。また、同時に旭川に関係する様々な地域でもその情報を共有していくことが必要である。
- ・ 今回の調査観察から、高島の干潟だけでなく児島湾沿岸の小さな干潟や砂質の浜辺で安全に注意しながら生き物の調査をすることができることが分かった。小規模な希望者による(家族単位の)調査観察会を実施していきたい。

⑤写真等参考資料添付



野鳥（オシドリ）観察会



御津宇垣母新谷池かい掘り調査



採集・分類パレット1



同2



ゴカイ類夜間遊泳観察調査B地点



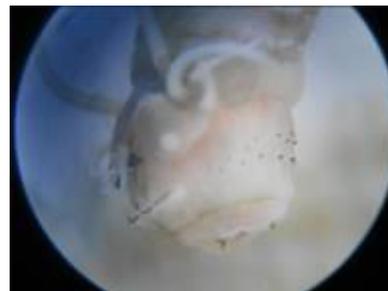
H270203B 地点泥干潟調査



スナイソゴカイ（棲管）



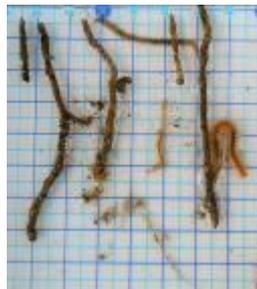
ソトオリガイ



スナゴカイ



旭川河口域（ケレップ水制）K地点



イトゴカイ（棲管）



アナジャコとマゴコロガイ

公民館等巡回
ポスター展用
(展示資料)

